

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム加世田
(ユニット名)	スマイル
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県南さつま市加世田本町11-2
記入者名 (管理者)	鬼塚 毅
記入日	平成 19年 9月 10日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	1. 認知症の要介護者に対して、個人の尊厳と生活の質が保たれ、その人らしい安らかな生活をして頂ける様、常に心がける。2. 地域と結びついた生活が送られるよう環境の確保を図る。3. 地域にとけ込み、地域の方々から愛される雰囲気作りに努める。4. 地域に信頼される、地域に根付くグループホームを目指す。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念については、常に職員にその内容に係る話をしていく。利用者が過ごす毎日の中においては、理念を見つめなおす機会(課題)も多く、ミーティングや申し送りの場を使い、気付いたことを話すよう努めている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族に対しては、当事業所の利用開始前に重要事項説明書を使用して説明を行っている。玄関の掲示板にも記載掲示している。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	回覧板のやり取りや、通りで行なわれるお祭りや清掃作業といったイベント、近所での買い物や散歩の機会など地域住民と触れ合う機会は多くある。挨拶や玄関周りの雰囲気など、隣近所の方にも気軽に立ち寄ってもらえるような雰囲気作りに努めている。時には、「トイレを貸してください。」と入ってくる子どももいる。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	清掃作業やお祭りなど、地域の方からも参加の呼び掛けをよくいただいている。地域の公民館とは定期的に話合いの場を持っており、今後も更に老人会との付き合いなど、地域の方々とのつきあいを深めていけるように努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	定期的の実施している運営推進会議の場や、地域の商工会の役員の方などに対して、当事業所の説明を行なうとともに、今後何が当事業所にできるかを話し合っている。地域の議会からの見学や、介護を専門に学ぶ学生、また介護施設職員の方の施設実習を毎年受け入れている。	○	現在、認知症ケア専門士2名、看護師2名、介護福祉士4名、介護支援専門員2名、歯科衛生士1名、その他、といった資格保有者がおり、地域の高齢者や家族に対して相談会の実施などを検討している。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者及び管理者と全職員は、自己評価を作成する際や外部評価の結果を受けることに対して、それぞれが自らの業務を見つめなおす機会と受け取っている。このときばかりではなく、常に気づいたことは改善していけるように心がけている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、かねてより当施設の利用者やサービスの実際については報告を行っている。この外部評価の結果が出た際には、その内容の公開と改善に向けての話し合いが行なわれるよう年間計画に組み込んでいる。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険に関する運営上の質問などはもちろんであるが、医療費に関する制度、障害者制度、低所得の利用者に関する制度など、介護保険の窓口に限らず様々な窓口と相互に関わる機会があり、それぞれの担当者の協力もあって、より良いサービスの質の向上につながられている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	当事業所においても1名の入居者が制度の利用を行なっている。その方自身のデリケートな部分、例えば家族との関わりや今後についてなど難しい面もあるが、全職員が理解をもって対応をしている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部で行なわれる研修には積極的に参加し、当事業所内においても常々、虐待防止や倫理的なことをテーマにして勉強会を行ってきている。全職員が強い意識を持って虐待防止を心がけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には十分な説明を行っている。なるべく契約書は自宅へ持ち帰っていただき、よく確認してもらってから同意を頂くようにしている。退去の際にも、利用者、家族と共に転居先の担当者とな十分な引継ぎを行なっている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者ならびに職員は常に利用者の意見を汲み取る事が出来るよう心がけている。なるべく個別に会話ができる機会も設けている。そこで出てきた意見については、その内容に応じて、上司への報告、申し送りでの伝達、施設内勉強会のテーマにするなどしてサービスの質の向上につながるよう心がけている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の請求書を家族等へ郵送する際、「近況のお知らせ」を同封している。必ず直近の写真(家事をしている姿や散歩、ドライブ先の姿など)をプリントして、暮らしぶりの報告などを行っている。家族からは好評を得ている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は普段から家族からの意見がされやすい雰囲気を心がけている。管理者は利用開始時に自らが苦情受付担当者であることを説明しており、これまでも相談を受け付けている。玄関には「ご意見箱」を設置しており、そこに出された意見は当事業所の運営会議において対応が検討されている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、施設管理者と各ユニットの計画作成担当者(ユニットのリーダー)、各ユニットのサブリーダーが集まって「運営会議」を実施している。内容は運営に関するもので、話し合いの結果は会議録にして各ユニットに通達される。各職員の意見は運営会議の議題に挙げられるものとしている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	基準となる日勤の時間帯はあるが、利用者・家族の状況および施設内外のイベントによって、勤務時間帯の調整は柔軟に行なっている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動等は、「運営会議」において慎重に話し合いの上で、必要最小限に行なっている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員それぞれの特性や希望に応じて、先ず目標設定を立てている。定期的に行なう事業所内研修や事業所外の研修(他施設実習を含む)にも、全職員をその内容に応じて参加させている。最近1年間では、認知症ケア専門士を2名が受験し合格、介護福祉士を5名が受験し4名が資格保有となっている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は事業所の空き状況や運営に関する事など、常に近隣の同業者と連絡を取り合っている。職員も他施設からの施設実習受け入れや他施設の訪問などを通して、自らのサービスの質を見つめなおす機会としている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者は、管理者や職員の抱えるストレスがサービスの質に影響を与える事ということをよく理解している。定期的に行われる運営会議が、職員の意見が反映される場として設けられている。	○ 職員のストレス解消方法については、今後も工夫を重ねて取り組んでいく。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者及び管理者は、職員個々の特性を良く理解する事に努めている。それぞれの特性や事情に応じて勤務調整をし、普段から何気ない事にも、気配り、声掛けを行なうことを心がけている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービス利用が開始される前には、必ず本人と面談をして本人が困っている事や不安なこと、求めていることを確認するよう努めている。本人との会話だけでは不足の部分もあるので、家族やそれまでに関わりのある関係機関などからも情報をいただいている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービス利用が開始される前には、殆どのケースで先ず家族のほうから相談に来られる。当然、家族の思いや立場なども考慮した上で相談を聴き、受け止めることとしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急の対応が迫られた相談が多いが、満床によりお待ちいただくことが殆どである。相談者の協力者、例えば担当されているケアマネージャーがいるかどうかを確認し、必要があれば他のサービス利用なども案内をしたり、手続きを支援するなど行なっている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者にとっては、新たな人間関係や自身の生活環境が変化することに対して不安や抵抗を感じるということを、全職員がよく理解している。違和感の少ない環境作りや、近くに座る利用者や本人がこの場での存在の意義を感じられるような役割りに配慮している。多くの方が、早くから不安や抵抗感を軽減されてきていると自負している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、日々サービス利用者と接する中で「お願いします。」「ありがとうございます。」「ごめんなさい。」という言葉を意識的に多く使っている。毎日の記録にも、「役割り活動」の欄があり、共に支えあう関係作りを心がけている。実際に、職員が学ぶ場面も多くある。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	毎月、写真付でお送りしている「近況のお知らせ」がグループホームでの暮らしぶりを身近に感じてもらうひとつの機会になっている。近くで暮らすご家族は面会に来られた際などで様々な会話もできるが遠く県外におられたり、仕事により普段立ち寄り寄る事が困難なご家族に好評を得ている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	サービス利用者から、自宅への一時帰宅の希望があった場合は、家族と共にその都度検討を行なっている。中には毎週週末を自宅で暮らす利用者もおられた。その他にも、気兼ねなく面会に来られる雰囲気作りや、家族の声を聴きたい時などは電話の使用などを支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	空き家になっている自宅への同行をたまに行なうが、その際は家の中で共にゆっくりしたり、隣り近所の方への挨拶を行なったりしている。お墓参りも、家族だけに頼れない場合は職員が同行を行っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個別の特性を把握したうえで関係作りの支援を心がけている。ひとつの例であるが、心身の不調が訴えられていた方へ他の利用者のお世話をお願いしたところ、その方自身の不調の訴えが殆ど聞かれなくなった。その様なケースが複数みられている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	長期入院によって契約が終了したケースがあったが、花見やドライブなど病院との連絡調整によって案内を行ったりしている。契約終了時には予想が困難であったがその後再契約につながったケースもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス利用者との普段からの会話の中で、不満や希望、意向の聞き取りを心がけている。そこで得られた情報は申し送りやケアプランの内容につなげられている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用開始前には、本人や家族、担当されていた関係機関からの情報収集に努めている。その後も、何かの機会があれば、それとなく様々な情報を職員が共有できるよう心がけている。	○	現在、個別の情報シートを作り直しているところである。非常に項目の欄が多いものであるが、時間をかけてでも内容を充実したものに仕上げたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	現状を総合的に把握するためのひとつの手段として、「ケアプラン実施表」が毎日チェックされている。もちろん個別記録もその為の内容に繰り返し修正を行ってきている。中には短期間の間に状態が変化するサービス利用者もあり、これらの記録が職員の間で日々共有の情報となっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	現在の毎日を共に過ごす職員らによって、様々な場面での観察や、本人・家族との会話をもとにして、「支援経過記録」および「ケアプラン実施表の月毎評価の欄」に意見やアイデアが提示されている。介護計画はこれらの情報をもとに作成を行なっている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎日のチェック及び月毎評価欄がある「ケアプラン実施表」によって介護計画はいつでも内容が書き換えられるものとなっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「生活記録」「支援経過記録」「ケアプラン実施表」を一冊の個別ファイルに準備し、毎日の記録がされている。これらが、介護計画の見直しに活かされている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	職員の中には、外科やリハビリ、神経内科などを専門にする病院や在宅介護支援センター、特養、歯科医院などに勤めた経験を持つものが多く在籍している。それぞれが、その知識や技術によって、サービス利用者や家族の相談を聞いたり、関連する機関を紹介するなどしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の方の紹介などを受け、ボランティアをお願いしたりしている。民生委員とも必要の際には連絡を取り合っている。消防署には毎年来ていただき、災害時の避難方法など講習を受けている。市民会館には、今年から利用者の手作り作品を展示する機会をいただいている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在、デイケアやリハビリを専門とする医療機関など4事業所の協力をもらい、8名の方が介護保険以外の通所サービスを利用している。これらの機関の担当者や福祉用具事業者などが、共に必要な情報を共有し連携をとりながら支援が行なえている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	これまでのところでは、地域包括支援センターとの協働はできていない。今後、当事業所の支援体制を更に充実させていくためには、協力体制は必要と考えている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	サービス利用者全体では、心臓や大腸、神経などを専門とする内科、リハビリ科、眼科、耳鼻科、歯科などいくつものかかりつけ医に頼っている。家族とも協力し合う中で、職員が同行を行ったり、受診時間の調整を病院との間で行ったりしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>現在、センター方式のアセスメントシート使用に移行中であり、改めてサービス利用者やご家族の意向を確認しているところである。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	時には慣れによる遠慮のない言葉かけや礼儀を欠くなどの場面がみられる。その直後や毎月実施するミーティングの機会を使い、全員で見つめ直しを行っている。今後も常に自戒を持って言葉かけや対応、記録等の個人情報は取り扱っていきいたい。	○ 接遇及び個人情報に関するものをテーマにした勉強会を、今後も継続して行っていく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	殆どのサービス利用者が、不安や自信の喪失、時には職員に対する過度の遠慮を感じている。これに対して、スタッフはサービス利用者への接し方については日々模索検討を行っている。ケアプラン(ケアプラン実施表)にもその内容を入れ込み、毎日私たち自身による確認を行っている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全ての面で「その人らしい暮らし」がなされているわけではない。但し職員の基本的な姿勢については、日々私達自身による確認を行うようにしている。例えば、夜間の過ごし方(入床、起床、排泄、空腹時の対応)については、個別に対応が検討され続けている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身だしなみについては、サービス利用者の個性(希望)をもとにし、職員が家族と共に支援を行なっている。髪の毛のカットは本人の希望や家族との連絡によって、数ヵ所の美容室が利用されている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の苗を一緒に植え成長を共に楽しんだり、野菜の皮むきを手伝ってもらうなどしている。そのあとは全体で笑顔や会話のある食事を楽しんでいる。片付けも個別の状態に応じてそれぞれにお願いをしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	サービス利用開始時にそれぞれの嗜好を確認している。その後も例えば飲み物であれば、お茶や麦茶、牛乳、ヤクルト、紅茶、コーヒーなどが準備されその日の希望に応じてお出ししている。たばこについては制限は設けていないが現在まで希望は出されていない。お酒は日常的とはいえないが、時には希望者のみにお出ししている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	尿意、便意が完全に喪失された方はおらず、今後もこの能力が低下することのないよう支援を行なっていく。方法としては、ソワソワした時すぐのトイレ誘導や排尿リズムの把握によるトイレ誘導などを行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	皆さんが毎日の入浴を楽しみにしており、気分や体調の不良がない限りは毎日の入浴を支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間であれば個別によってその過ごし方は特徴があり、職員はそれぞれに応じて対応をとっている。昼食後や入浴後にちょっとした休息や昼寝をされる方もいるが、その場所や時間の程度など心配りをするよう心がけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日確認される個別ファイルの記録に生活記録がある。これにはその日の「役割り作業」「活動」の項目がありその日毎に意識を持って確認を行っている。気晴らしの支援については大小のイベントを季節によって計画している。身体の不調や閉塞感などが感じられる場合には、気晴らしの方法を利用者と共に模索し実施を行なっている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	衣類や食事、おやつなどがほぼ満たされており、なかなかお金を使う機会が作られていない。殆どの方が、本人、家族との話し合いで幾らかの所持金は持っているの、今後はそのような機会も準備していく。	○	遠方にいる家族への贈り物など希望に応じて相談にのる。又は、個人が気晴らしなどに行なっている折り紙や手芸用品を一緒に買いに行くなどの機会を準備する。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	サービス利用者の方全員が、外出を希望する際は職員に声を掛けて下さっている。職員の側からも、気晴らしが必要と感じられれば車椅子を押して散歩に連れ出すなどしている。通院リハビリを数名の方が利用されているが、そこで接する昔馴染みの方たちのことなど後でいろいろ話して下さる。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	一部の利用者のお盆の墓参りに同行している。毎年、春には花見、夏には唐船峡のソーメン流しに出かけている。今年のみかん狩りには行けなかったが希望者と温泉や知覧の平和記念公園に出かけている。時には家族にも参加を呼びかけている。以前に家族と共に出かけた思い出の場所であったりすると、大変喜んで頂いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話の支援を行なっている。年賀状は自筆の文字を書いてもらうよう促している。	○	お歳暮やお中元、普段からの手紙などサービス利用者本人の希望を確認し、希望が確認されれば今後支援を行なっていく。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や親戚、友人の方などよく訪問をしていただいている。場所は殆どの方が居室でゆっくりと過ごされている。慣れた方になると、ホールで他の利用者の方とも一緒に語られている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に行なっている事業所内勉強会では、幾度も話し合いのテーマとなっている。全職員が強い意識を持って「身体拘束をしないケア」に取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が、事業所の都合によって居室及び日中の玄関に鍵をかけないことを当然のことと認識している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は常にサービス利用者の表情や動作を観察確認しており、普段と違った様子であれば特に所在の把握や転倒の防止などを心がけている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	現在のサービス利用者で誤飲誤植の心配が特に高い方は見受けられないが、念のため固形石鹼や洗剤、薬品、刃物の類は手の届かないところで保管を行なっている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急時(転倒、誤飲誤嚥、行方不明、脳貧血、火災)の対応マニュアルを整備し、全職員がその内容を把握している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的に行なっている事業所内勉強会で幾度も確認を行っている。運営者の経営する医療機関から看護婦の方にも講師として参加してもらっている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎年、地域の消防署に協力を頂き防災訓練を実施している。昨年からは、同じ建物内に事業所を持つ精密部品工場から参加者40名程の協力を頂いて2階からの避難誘導訓練も実施できている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	サービス利用開始時に起こりえる事故と事故後の対応については重要事項説明書を使い説明を行っている。その後についても、例えば歩行能力の低下や回復に伴って転倒が心配される場合などは、ケアの方針や具体的な対応策について説明を行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、体温・血圧・脈拍・気分の良し悪し・顔の表情をチェックし、記録を職員全体で確認し合っている。夕方に状態が変化する方もおられるが、速やかな対応がなされている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の目的や副作用、用法や用量を理解することができている。医療機関との連携では、服薬の情報を受けるだけではなく適切な服薬支援につながるよう情報の提供も心がけている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	運営者が胃腸肛門科外科の専門医であり、職員は医療機関と連携する中で便秘の原因や影響をよく理解している。薬だけに頼らず、食材や水分補給量、運動、生活リズム、ストレス解消の工夫などを常に心がけている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	当事業所内に歯科衛生士の資格を持つものがおり、勉強会では講師をするなどしてその知識を毎日のケアにつなげている。毎食後の支援はもちろんであるが、近くの歯科医院にも協力を頂き、義歯の具合などを確認していただいている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	サービス利用者の嗜好に合いながらも栄養バランスの良い献立づくりを心がけている。食事量や水分摂取量は毎日確認の上記録を行っている。咀嚼力が低下した方については、どの程度から嚙めるかを把握しキザミ食を提供するなどの対応を行っている。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策マニュアルを整備している。手洗い、うがいは利用者、職員、訪問者の方に徹底してお願いをしている。排泄物の処理法や食材の熱処理、ふきんなどの消毒もマニュアルの通りに実施されている。定期的に検便などの検査も実施している。	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	職員は食中毒の防止に努めている。食材の管理については特に気をつけている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	日中は常に鍵をかけず、誰もが出入りできるようになっている。時には前隣に暮らす80歳代の女性が会話を求めて遊びに来られている。玄関には常に花や野菜(とうもろこしやピーマン等)をかかさずプランターに植えており、通りを歩かれる方の目にとめていただけるようにしている。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除機や食器を洗う音など生活感のある音は別として、職員による不快な会話や気の重くなるようなテレビのニュースなどは、なるべくサービス利用者の耳に入らぬよう心がけている。光もその時の天候や活動に応じて調整を行なっている。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂のテーブルとは別に幾つかのソファが置かれており、それらが個別の指定席に自然となり、「相棒を連れてきて。」「相棒が横に来てくれた。」などとの声が普段より聞かれている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	当事業所の居室については、ベッドや冷暖房など最低限の設備を提供し後は本人や家族の好みなどによって持ち込みがされるようにしている。これまで過ごされた和式の雰囲気も勧めたりするが、家族の衛生に関する心配やサービス利用者本人の活動能力による希望などがあって、殆どが洋式のスタイルとなっている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空気の上よみや様々な匂い、サービス利用者が感じる体感温度については常に気を配っている点である。台所や浴室に入る職員の感覚では「ずれ」が出ることもあるが、別の職員が積極的に気を配り温度調節については利用者に確認を求めて調節を行なうように心がけている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	現在、車椅子使用者が2名、歩行器使用者が4名いるが、居室、食堂、トイレなどは見守りと軽度の介助のみで支援ができています。ずり落ち防止の車椅子用クッション、片麻痺の方が自力で移乗する事のできる車椅子を障害者制度によって給付支援、安心して入浴ができる環境の支援など常に工夫を心がけてきています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	当事業内で作られた個別の習慣を大切に、例えばテーブルに座る場所や隣に座る者同士の配置、使用するトイレ内の物(汚物入れなど)が一定の場所に置かれるよう心がけている。混乱が見られる場合には個別の落ち着いた場所を職員が把握している。	○	「わかる力」の低下が著明な方もおられるが、その方の理解力を職員全体で把握がされるように努めていく。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	気候が良ければ、呼び掛けをして近くの公園に散歩に出掛けたりしている。玄関には野菜の苗を季節に応じて一緒に植えておりその成長を共に楽しんだりしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)